

1 つぎの文章を読んで問題に答えましょう。

夏休みの前の日、理科クラブの活動で天体観測をすることになった。

「晴れるといいね」と言いながら、ぼくは家に帰ると、すぐに古い望遠鏡を出した。祖父が使っていたもので、すこしほこりをかぶっていた。レンズをふいてのぞくと、近くの電柱の上にとまったカラスがはつきり見えた。「よし」と声に出して言う。

その夜は曇り。星は一つも見えなかった。けれど祖父が言った言葉を思い出した。「星は見えなくても、いつもそこにある。見えない夜にどう待つかが大事なんだ。」ぼくはその言葉を胸の中でくり返した。

次の日、理科クラブのメンバーと校庭に集まった。先生は黒板に星座の形を描きながら言った。

「星は、空にある点と点。けれど、つながりで見える形が変わるんだ。」

チョークの音がきゅっと鳴る。ぼくはスケッチブックに線を引きながら考えた。ぼくの星座は、まだ線がつながっていない気がする。昨日の宿題を忘れかけたり、話し合いで言葉がつまったり。点はあるのに、うまく結べない感じがした。

観測の日の夜。空はすっかり晴れた。風が少し冷たく、虫の声がすうっと耳に入ってくる。

「北斗七星が見えるよ!」とまいが指さした。

望遠鏡をのぞくと、星が点ではなく、光の粒になって広がっていた。思わず「すごい」とつぶやく。となりのまいが言った。

「七つそろってないと名前がつかないんだって。」

その言葉に、昨日の先生の話が重なった。点をつなぐことで、意味が生まれるのかもしれない。

家に帰ると、祖父の机の引き出しに古いノートを見つけた。表紙には「星日記」と書いてある。中には、日付と星のスケッチ、そして短いことば。「くもりでも、見えるつもりで見上げる」「星を見て、自分を見つめる」。ページのすみには、小さな星印

がいくつもあった。

ぼくは新しいページを開き、今日の空を書いた。「北斗七星、風すずしい、光ゆれる。」そして、ページの下に小さな星印を一つ描いた。祖父のまねをして。書いているうちに、胸の中のものもやが少しづつ晴れていくようだった。

次の日、まいにそのノートを見せた。

「それ、いいね。星をつなぐだけじゃなくて、気持ちもつながる感じ。」

そう言われて、なんだか胸の中があたたかくなった。

放課後、ぼくらは校庭で次の観測の準備をした。先生は「次は夏の大三角を探そう」と言い、三本の線を指でなぞった。

「ベガ、アルタイル、デネブ。三つをつなぐと、大きな形になる。」

ぼくは思った。星座って、誰かと見上げてこそ完成するものかもしれない。

夜、ベランダに出ると、風鈴が鳴った。空には昨日より多くの星が光っている。

ぼくはノートを開き、今日の言葉を加えた。

「星を待つ時間も、星の一部。」

ページのすみに描いた星印が、ほんの少し光ったように見えた。

雲の向こうには、まだつながっていない点がいくつもある。でも、きつとつながる。そう信じられる夜だった。



(1) ぼくは家に帰ってから、最初にどんなことをしましたか。次の中から正しいものをえらび番号を○でかこみましょう。

- ① 家の庭で星をさがした。
- ② 祖父の古い望遠鏡を出してそうじした。
- ③ まいに電話で観測の相談をした。
- ④ 星の絵をノートにかいた。

(2) 祖父が言った「見えない夜にどう待つかが大事なんだ」という言葉には、どんな気持ちがかめられていますか。() にあてはまる語を、語群から選び文を完成させましょう。

() () が出ても星は () ()。だからあきらめずに () () ことが大切だ。」

【語群】

- ① 霧
- ② つねにある
- ③ 見上げる
- ④ 雲
- ⑤ 消えてしまう

(3) 先生が黒板に星座の形を描きながら言ったこととして、正しいものには○、まちがっているものには×をつけましょう。

- () () 星は空にある点と点で、つながり方で形が変わる。
- () () 星の数を数えれば、未来がわかる。
- () () 星の形はいつも同じで変わらない。

(4) ぼくは「ぼくの星座は、まだ線がつながっていない気がする」と思いました。この「線がつながっていない」とは、どんなことをたとえていますか。本文の内容に合わせて、三十字以内で書きましょう。

(5) 次の出来事を起こった順に並べかえなさい。

- ① 「星日記」と書いてあるノートを見つける。
- ② まいが「北斗七星が見えるよ」と言った。
- ③ 夜ペランダに出ると風鈴が鳴った。
- ④ 新しいページを開き今日の空を書いた。



(6) 最後の場面で、ぼくの気持ちに合う文になるよう、() () にあてはまる語を、語群から選び文を完成させましょう。

「見えない星も、いつか () ()。だから、() () を感じられるようになった。」

【語群】

- ① 見えなくなる
- ② つながる
- ③ 自分の成長
- ④ 先生の成長

(1) ぼくは家に帰ってから、最初にどんなことをしましたか。次の中から正しいものをえらび番号を○でかこみましょう。

- ① 家の庭で星をさがした。
- ② 祖父の古い望遠鏡を出してそうじした。
- ③ まいに電話で観測の相談をした。
- ④ 星の絵をノートにかいた。

(2) 祖父が言った「見えない夜にどう待つかが大事なんだ」という言葉には、どんな気持ちさがこめられていますか。(一)にあてはまる語を、語群から選び文を完成させましょう。

「**④**」が出て**星は**（**②**）。だからあきらめず
に（**③**）ことが大切だ。」

【語群】

- ①霧 ②つねにある ③見上げる
④雲 ⑤消えてしまう

(3) 先生が黒板に星座の形を描きながら言ったこととして、正しいものには○、まちがっているものには×をつけましょう。

- (○) 星は空にある点と点で、つながり方で形が変わる。
- (×) 星の数を数えれば、未来がわかる。
- (×) 星の形はいつも同じで変わらない。

(4) ぼくは「ぼくの星座は、まだ線がつかっていない気がする」と思いました。この「線がつかっていない」とは、どんなことをたとえていますか。本文の内容に合わせて、三十字以内で書きましょう。

自分のやるべきことや気持ちはまだ一つにつながっていないこと。

(5) 次の出来事を起こった順に並べかえなさい。

- ① 「星日記」と書いてあるノートを見つける
- ② まいが「北斗七星が見えるよ」と言った。
- ③ 夜ベランダに出ると風鈴が鳴った。
- ④ 新しいページを開き今日の空を書いた。

②
↓
①
↓
④
↓
③

(6) 最後の場面で、ぼくの気持ちに合う文になるよう、(一)にあてはまる語を、語群から選び文を完成させましょう。

「見えない星も、いつか②」。

だから、③を感じられるようになった。」

【語群】

- ① 見えなくなる ② つながる
③ 自分の成長 ④ 先生の成長